

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	独立行政法人日本芸術文化振興会施設整備に必要な経費			担当部局庁	文化庁	作成責任者	
事業開始年度	平成15年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画調整課	企画調整課長 寺本恒昌	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第3条			関係する計画、通知等	文化芸術推進基本計画(平成30年3月6日閣議決定)		
主要政策・施策	観光立国、知的財産			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国古来の伝統的な芸能の公開、伝承者の養成、調査研究等事業の充実により、芸術その他の文化の向上に寄与するよう、独立行政法人日本芸術文化振興会の施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のための施設整備を行う。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	伝統芸能の伝承と創造にかかる機能強化、文化観光拠点としての機能強化及び周辺地域との調和等を実現させるため、国立劇場を建替えを基本とした整備を行い、国立の劇場であることを前提としつつ、民間事業者からの提案やノウハウに基づく要素を取り入れることとする。事業方式はPFI方式とする。令和2年度策定の「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づいて、令和3年度には「実施方針の公表」・「特定事業の選定・公表」、令和4年度には「事業契約」、令和5年度より「設計・建設施工業務」、令和10年度までの竣工を目標とする。 (定額補助)						
実施方法	補助						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求
		補正予算	-	-	-	-	0
		前年度から繰越し	237	421	906	-	-
		翌年度へ繰越し	381	237	421	906	-
		予備費等	▲ 237	▲ 421	▲ 906	-	-
		計	-	-	-	-	-
	執行額	381	237	421	906	0	
	執行率 (%)	364	237	312			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	96%	100%	74%			
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
	独立行政法人日本芸術文化振興会施設整備費補助金	0	0	令和5年度概算要求においては事項要求になるため金額記入不可			
	計	-	0				

活動内容 (アクティビティ)		独立行政法人日本芸術文化振興会の設置する施設の狭隘・老朽化等への対応のため、必要な設備整備を実施する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	独立行政法人日本芸術文化振興会の施設・設備の老朽化への対応、利用者の安全確保及び利便性の向上等を目的とした施設整備を適切に行う。	施設整備の実施件数	活動実績	件	7	9	17	-	-	
			当初見込み	件	7	9	17	5	-	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	独立行政法人日本芸術文化振興会施設整備に必要な経費で有り、整備の規模がそれぞれ異なることなどから、経年比較に当たって有意義な単位当たりコストの算出は困難である。			単位当たりコスト	-	-	-	-		
				計算式	/	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による実務実績の評価のうち、施設・設備に関するものについて、すべての項目で標準評価以上の評価を受ける。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。 中間目標の期間(平成30年度～令和4年度)	成果実績	%	100	100	100	-	-	
			目標値	%	100	100	100	100	-	
			達成度	%	100	100	100	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	独立行政法人日本芸術文化振興会における業務の実績に関する評価(文部科学大臣)									
政策評価 政策 施策	政策	12 文化芸術の振興								
	施策	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_12-4.pdf							
		該当箇所	施策目標12-4-1, 12-4-2							

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	事業者は、我が国の伝統的な芸能の公開等を行い、その保存及び振興を図るとともに、我が国における現代舞台芸術の公演等を行い、その振興及び普及を図ることによって芸術その他の文化の向上に寄与することを目的としており、広く国民のニーズがあり、優先度の高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	当事業は独立行政法人通則法及び日本芸術文化振興会法等に定められた、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが必要な事務及び事業であり、地方自治体、民間等に委ねることはできない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	事業者は、我が国の伝統的な芸能の公開等を行い、その保存及び振興を図るとともに、我が国における現代舞台芸術の公演等を行い、その振興及び普及を図ることによって芸術その他の文化の向上に寄与することを目的としており、政策の優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定にあたっては、会計規程等に則った適切な手続きにより行っており、選定の妥当性や競争性の確保に努めている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	劇場特有の設備に関する業務については、履行可能な者が限られることから、履行可能な者がほかに存在しないため、競争性のない随意契約となったものがある。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、独法が国から指示された中期目標の達成に向けて策定した中期計画を実施するために、独法に対し交付するものであり、負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	会計規程等に則った適切な手続きにより行っており、効率化や削減努力に努められている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	会計規程等に則った適切な手続きにより行っており、効率化や削減努力に努めており、合理的なものとなっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	日本芸術文化振興会が行う施設整備に必要な事業のみ実施している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	不要率が大きくなっている理由は国立劇場再整備事業の発注に当たって一般競争入札を実施した結果、契約額が大幅に下回ったためである。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	国立劇場の再整備に際し、関係機関との調整や事業計画の見直しに伴い不測の時間を要することとなったためであり、その理由は妥当なものとなっている。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	会計規程等に則った適切な手続きにより行っており、効率化や削減努力に努められている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標に沿って着実に工事を実施しており、実績と目標の乖離は見られない。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業の実施にあたっては、最も適切かつ効果的に低コストで実施している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	見込みに沿って着実に工事を実施しており、実績と見込みの乖離は見られない。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	工事終了後は各施設整備の安全・安心が確保され、公演事業等の充実に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> 必要な施設整備がおおむね順調に進捗している。 原則、一般競争入札等による調達を実施し契約者を決定しており、支出先の選定の妥当性や競争性を確保するとともに単位あたりコストの削減に努めている。
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保と円滑な公演実施のため、引き続き計画的に実施していく必要がある。 真にやむを得ないものを除き、一般競争入札等により競争性を確保するとともに、入札にあたっては、入札参加条件や入札書の見直し、適切な公告期間の設定等による競争性、公平性、透明性の確保を引き続き確保していく。

外部有識者の所見

事業の目的及び内容については施策目標の達成手段として適切なものとなっている。また、成果指標は適切な指標となっており、成果目標値についても適正であると認められる。(西野委員)

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り	この事業は、外部有識者の点検、事業所管部局による自己点検及び行政事業レビューワーキングチームによる点検の結果を踏まえ、特段の見直しは要しないものと考えられる。
------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り	
------	--

備考

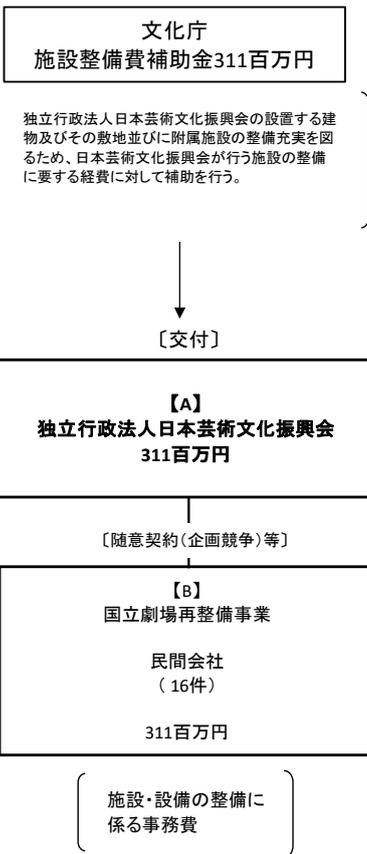
「公共調達の適正化について」(平成18年8月25日付財計第2017号)に基づき公表済みの場合を除き、同種の他の契約の予定価格を類推させるおそれがあるため、落札率は非公表
【URL】<https://www.ntj.jac.go.jp/about/procurement/info.html>

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	387			
平成24年度	410			
平成25年度	375			
平成26年度	369			
平成27年度	365			
平成28年度	345			
平成29年度	354			
平成30年度	357			
令和元年度	文部科学省 - 0394			
令和2年度	文部科学省 0395			
令和3年度	2021 文科 20 0420			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.独立行政法人日本芸術文化振興会			B.香山・山下PMC設計共同体		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業費	施設・設備の整備に係る工事費、事務費	311	事業費	国立劇場再整備等事業に係る技術アドバイザリー業務	145
計		311	計		145

